

平成20年12月

長谷川晶子 学位論文審査要旨

主 査 西 連 寺 剛
副主査 山 元 修
同 井 上 幸 次

主論文

Clinical application of real-time polymerase chain reaction for diagnosis of herpetic diseases of the anterior segment of the eye

(前眼部のヘルペス性疾患診断におけるリアルタイムPCRの臨床応用)

(著者：長谷川(柿丸)晶子、郭權慧、小松直樹、小松恵子、宮崎大、井上幸次)

平成 20年 Japanese Journal of Ophthalmology 52巻 24頁～31頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は2003年7月より2005年12月までに鳥取大学医学部附属病院にて臨床的にヘルペス性眼炎症性疾患と診断された患者もしくは臨床的にヘルペスとは異なると診断された前眼部炎症性疾患患者90例144サンプルより採取した涙液、角膜擦過物及び前房水を用い、DNA mini kitにてDNAを抽出し、QuantiTect™ SYBR® Green PCR kitにてreal-time PCRを行い、サンプル中のHSV-DNAコピー数を定量し、臨床診断や治療経過と比較検討したものである。その結果、角膜ヘルペスをはじめとする前眼部ヘルペス関連疾患においてreal-time PCRが簡便で有用な検査であることを確認し、HSV-DNAが 10^4 コピー以上認められれば、real-time PCR単独でHSVを病因と考えられた。しかしHSV-DNAが低コピー数の場合は、その結果に加えて臨床所見及び治療薬剤に対する反応性などを照らし合わせてHSVが病因であるか否かの検討が必要であると考えられた。

本論文の内容は、前眼部ヘルペス関連疾患においてreal-time PCRが簡便で有用な検査であり、これまで診断し得なかった症例に対しても極めて有用な情報をもたらす可能性を示唆し、明らかに学術水準を高めたものと認める。